

リハビリトピックス

徳島県作業療法士会主催 第17回作品展に参加

9月22日から24日の3日間、文化の森にて徳島県作業療法士会主催の第17回作品展が開催されました。県内の病院やデイケアなど各施設から、たくさんの利用者様や患者様の作品を展示していただきました。当院の通所リハビリにて作業活動をされている皆様からも、日頃取り組まれている作品を展示していただきました。普段、パズルやきめこみ、ネット手芸など、手指の運動であったり、趣味であったり、様々な目的で作業活動をされています。作品展は、たくさんの想いがつまった作品を発表する場となりました。3日合わせて300人以上の来場者となり、外出の機会になったり、家族や友人とのコミュニケーションの場となったり、他の方の作品を楽しまれました。出展していただいた利用者様、家族様、来場くださいました皆様、ご協力ありがとうございました。

リハビリ部 板東



保育所だより



🎃「トリック オア トリートー！」

今年のハロウィンイベントは子供たちが思い思いのかわいい衣装を着て小松島病院、小松島リハビリテーションクリニックにお菓子をもらいに行きました☆たくさんお菓子をもらってとても嬉しそうな子供たちでした♪



グループホームだより



玄関ではアソイのお花がお出迎え♪

★Happy Halloween★

皆さんでペタペタと紙工作しています。

お月見ですね☆多実りの秋となりますように！

男性×育児休暇

取得した職員にインタビュー

2022年10月に改正育児介護休業法の施行により、男性も育児休業を取得しやすい環境へと移りつつありますが、育児休業取得率は、女性は8割台で推移している中、まだまだ男性の育児休業取得率は女性に比べ低い水準となっています。当院を含む医療法人道志社の男性スタッフにおいても育休を取得する男性は増加傾向にあるものの、より一層の制度の認知向上や、育休を取得しやすい職場の風土醸成が求められています。

そんな「男性の育児休暇」、実際にとってみたらどうだったのか？当院理学療法士の坂尾 康太さんにインタビューを行いました。

「家族の時間を大切にできたこと、家事の大変さを知ることは貴重な経験だった」

一育児休業を取得するまでの経緯と取得してよかったこと・大変だったことは？

今回、第二子の出産・育休だったのですが妻の入院中、上の子の保育園の送迎を出来る人がいない事や、互いの両親がまだ共働きで協力が難しい事から妻に育児休業を取得してほしいとお願いされ取得に至った流れです。一か月間取得しましたが家族の時間を大切にできたことはとても貴重な経験だったと思います。



パパ沐浴奮闘中！ 長男青波と長女星風
あおば せな

そして元々あまり家事をする方では無かったので家事の大変さを知る事も出来ました。

一仕事の調整はどうされましたか？また上司の反応はどうでしたか？

予定日の数か月前にまずは直属の上司に相談しました。誰に相談しても優しく前向きな反応でした。それから部長や常務に相談させて頂きました。前例が無いにも関わらず、快く許可して頂きありがたかったです。担当患者さんの引継ぎ等もスムーズに行えました。

一仕事復帰された後に、変化した考え方・価値観などありますか？

育休明けは久しぶりの業務で入院患者さんもほぼ入れ替わっており少し戸惑いましたが周りのサポートもありスムーズに戻る事が出来ました。育休中、家族の時間をしっかり作れたこともあり、仕事に対するモチベーションも上がりました。

一これから出産を控えているパパたちにメッセージ

育児休業中は大変なことも多いですが、家族との時間を大切に出来るととても有意義な期間だと思います。これから取得を考えられている方は是非前向きに検討してみてください。

パートナーからのコメント



出産後、体力が落ちていることから夫が育児休業を取得してくれたおかげで回復を優先することが出来ました。買い物や料理、洗濯等、負担のかかる家事や上の子の面倒をみてくれてとても助かり心強かったです。